

学校名(香美市立香北中学校) 学校教育目標「自ら進んで学び、考え、行動することの出来る生徒(生きる力)を育てる」

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価
確かな学力	A	○学ぶ意味・意義を理解し、関わり合いの中で、自主的に学ぶ生徒を育てる。	①日々の評価や標準学力テストの結果などを効率的に生かして、どの生徒にも適切な指導がされている。	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり ○研究主任(各担当)主導の校内研の実施 ○外部講師を招いての授業研究など、スキルアップと教える喜びに繋げる。 言語やコミュニケーションなどを意識し、思考・判断・表現の力をつける。 ○小グループや機器を活用した、コミュニケーションのある授業実践 ○予習・復習のサイクル化を図る授業 ○中1合宿研ほかで「学習の手引」を使って学習方法を徹底する。	○研究目標に沿った授業が展開され、計画に沿った自己評価がされている。 ○他者の評価が途中の改善策にいかされている。	○学期ごとの全校研、全員の研究授業さらには関係団体における授業など積極的に行い、その都度評価の機会となった。 ○教育委員会や県の指導主事などの支援も多く、授業改善の上でも大きな前進がうかがえる。保護者の授業評価も13%伸びている。	○引き続き取り組みを継続する。 ○指導方法や教育内容も変化するので、関係機関と連携を図る。	○学校が一つの方向へと、まとった取り組みがなされ、成果を上げている。さらに、「香北中の授業」を進化させてほしい。 ○授業に対する生徒の姿が変わり、生き生きとした展開ができています。 ○生徒どうし、生徒と教師の関わり合いで信頼関係が深まり、学習効果が上がっている。 ○教師が生徒の実態をよく見ており、それに応じた素早い対応ができています。	S
			②教師の授業の工夫のもと、生徒が意欲的に関わり合い、高まる競争を仕あっている。	子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	○どの授業でも小グループを使う等、生徒同士の関わりや言語活動を入れ、高め合う場が設定されている。 ○生徒の評価アンケートで「授業が分かる」と答える生徒が75%を超える。 ○生徒や教員他の授業評価の活用がなされている。	○校内研で確認した小グループの活用がみるみる定着し、さらに教育課程に準拠した形の「かわりタイム」の設定や漢字の必須化など前向きな取り組みもできた。 ○生徒の授業がわかると答えた生徒が85パーセントに至った。 ○授業評価も進められ、回数にはばらつきがあるものの、授業に反映されている。	○香北中の授業スタイルをさらに進化させる。 ○個に応じた指導をさらに進める。		
			③目標意識を高く持ち、家庭学習にも努力を重ねている。	学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	○家庭の協力と理解を図り、目標意識を持たせ、習慣化を図る。 ○家庭学習の内容と時間を改善する。	○宿題・自主ノートの提出率が95%を超える。 ○家庭学習の時間と内容、提出率が常に95%を超えている	○提出は達成されているが、依然、一部の生徒ができない。細かい点検と個に応じた課題が必要である。 ○生徒のアンケートにも家庭学習ができていると答えた生徒が83パーセントとなり、昨年より13%も伸びるなど定着が見られた。		
豊かな心	A	○目標意識を持って、お互いを大切にしながら高めあい、汎用性のある社会人の基礎を固める。	①小中連携して人間関係づくりをすすめ、相互評価と高め合いができる。	○日々のノートや生活日誌指導(言語活動の充実)	○集団づくりを通じて、挨拶・返事・ありがとう・掃除などができているか ○自己理解や他人理解など、高めあいのスタイルが確立されたか ○問題行動はなかったか	○授業以外にも学年で仲間づくりの時間を設定し、学年単位で雰囲気の高揚を図るとともにソーシャルスキルを組み入れて規範意識にも繋げた。 ○教室に入らず、別室学習の必要な生徒がいるが、友達もよくかわり、大きな人間関係上のトラブルはなかった。 ○ノーヘルがあったが限定された生徒であり、その都度指導した。 ○30日以上生徒は依然6名に上るが、ずっと来られなかった生徒が2人も来るようになり、全体としても回復感がある。	○仲間づくりの活動の継続。 ○生活経験が少なく、忍耐力も弱い生徒が多いので、行事も意識して取り組む必要がある。 ○当たり前のことを増やす取り組みを増やす。 ○面談習慣や生活日誌、ユニット制(分割少人数)の道徳授業など、生徒の心に迫る取り組みを続ける。	○学級、学校全体でのきめ細かい取り組みで、自己理解や友人への温かい関係づくりが進んでいる。 ○個人面談や日誌指導などを通して、メンタル面のケアができています。 ○クラス全体の、不登校の生徒や転校生への関係づくりや働きかけが素晴らしい。この方向で、さらに人間関係の改善、深まりを期待する。	A
			②道徳や人権学習・体験活動他を通じて規範意識が向上し、問題行動が少ない。	○キャリア教育を充実させるために、ソーシャルスキルトレーニングを機会を多くする。 ○総合学習の目的を意識させ、さらに充実したものにしている。	○支援の必要な生徒と保護者への対応ができたか ○不登校の状況が改善されたか	○アンケート結果から、保護者が「相談できる」が23%、「子どものことを理解している」が11%、「行事が充実している」が18%上昇するなど教師への信頼度が上がっていると取れる。 ○平日の参観日は参加は少ないが、夜間や大事な発表などの場合は参観者も増えている。 ○PTAの研究大会などもあり、PTA役員や地区の住民、小中応援隊ほかの協力の下、大きな成果を上げた。また、そのことで、連携をさらに強化できた。	○各学年行事の意識づけ。 ○満足度や安心を与える情報発信を多くする。 ○授業時間との兼ね合いもあるが、生徒の地域とのかかわりを多くすること。		
保護者・地域と連携	A	○生徒が人間性豊かに成長するための条件整備を共にし、お互いが成長しあう関係を築く。	①学年世話人・地区委員との連携が図れている。	○保護者の参加を高めるための、保護者が企画、運営する行事の設定	○保護者の理解・協力の下、教育活動が進められたか	○アンケート結果から、保護者が「相談できる」が23%、「子どものことを理解している」が11%、「行事が充実している」が18%上昇するなど教師への信頼度が上がっていると取れる。 ○平日の参観日は参加は少ないが、夜間や大事な発表などの場合は参観者も増えている。 ○PTAの研究大会などもあり、PTA役員や地区の住民、小中応援隊ほかの協力の下、大きな成果を上げた。また、そのことで、連携をさらに強化できた。	○各学年行事の意識づけ。 ○満足度や安心を与える情報発信を多くする。 ○授業時間との兼ね合いもあるが、生徒の地域とのかかわりを多くすること。	○保護者が学校への信頼を深め、協力体制が築かれて、教育効果が上がっている。 ○情報発信がよくできているが、良いことだけでなく、いろいろな情報も流してほしい。 ○懸念だった夜間懇談会もできた。さらに、日曜参観を実施して、父親などとの体験学習ができればと思う。 ○保護者・地域との連携で、伝統的な行事が継続できている。	A
			②保護者の意識改革と交流が深まっている。	○夜間懇談会の実施、日常の家庭訪問、アンケート等の実施。	○家庭や地域に情報発信などができ、理解を得られたか	○保護者の理解・参加状況はどうか。	○生活改善の必要な家庭への啓発。 ○生徒会を使った取り組みをもっと充実させる。		
健やかな体	B	○将来設計の基礎である体力向上と安全教育、また、そのための、生活習慣のきちんと確立された生徒を育てる。	①体力と運動能力が全国平均に向上している。	○五分間プログラムなど日々の授業や部活動の中で、体力・運動能力向上に向けて、仲間と共に心を通わせながら体を動かす取り組みを取り入れる。 ○各種調査の実施、分析をして、公表と啓発にも努める。	○小中の共通課題に基づく研修が、進められたか	○体力面でも共通理解を図り、通学のことも機会あるごとに呼びかけている。その甲斐あって、雨天時でも、夏場は60パーセント近い自転車通学を見ようになっている。 ○2年生の体力は全国平均で、依然、瞬発力の面では弱さがあるが、改善傾向にある。体育の中でもかわりながら体力をつける方法が徐々に定着しつつある。 ○栄養教諭を活用し、食育を進めることができた。また、お弁当コンクールにも応募し、一定の評価を得た。 ○生徒会(保健委員会)を活用して生活調べをし、結果から保護者への啓発活動もできた。 ○避難にとどまらず、救護や搬送などの訓練を引き続き行い、ボランティアの精神と合わせて意識面でも立場を自覚させる機会をとれた。	○生活改善の必要な家庭への啓発。 ○生徒会を使った取り組みをもっと充実させる。	○通学方法、授業、部活動、食育など、いろいろな面から健やかな心身づくりの工夫がなされている。 ○お弁当づくりのコンクールへ応募するなど、楽しめる取り組みができ、家庭での話題にもなり、絆が深まった。 ○体力づくりも継続的に取り組めば、体力の向上が、さらに期待できる。 ○避難訓練で、救護や搬送の訓練が行われ、いざという時に地域の大きな力になると期待される。地域の中で、心のつながりができる試みだと思われる。	A
			②日常生活を見なおし、健康や安全を意識して、良い生活習慣が定着している。	○健康・安全面の指導と、食育にも努める。 ○救急法や救助の方法など、貢献できる社会人としての心構えや技術を身につける	○健康や安全についての意識付けや実践ができたか ○安全教育や避難救急訓練は的確に実施できたか。	○文科系に部活の運動の機会を増やす。			
特別支援教育	A	○特別支援教育の理念を理解し、生徒間の交流を増やし、お互いを尊重し合える集団作りと、将来の社会生活にも生かせる、行動化できる生徒を育てる。	①特別支援教育の専門性を共有し、個に応じた的確な教育がなされている。	○小中連携の下、情報の交換や生徒の交流も図れる。 ○各種の障害に関する理解と対処方法などの研修を深め、共通理解を図り取り組みを進める。	○小中の情報交換と課題の共有が図れたか ○校内研等での研鑽が図れたか	○小中合同校内研や月1度の管理職連絡会で学方面、生活面の課題を出し、共通理解を図った。2回の公開授業研に加え、講師を招いて仲間づくりの手法も研修できた。 ○特別支援コーディネータを中心に、生徒の理解と対処法などについて研修の時間を取り、普段の職員会の名Kで各人の研修の中での学習した内容も出すなどの高まりを見た。 ○肢体不自由の生徒もいることもあって、周囲も理解しやすく、障害者理解について教材としてもいくつかに取り入れて実施できた。また、行事などでも違った立場の生徒がいることをみんなで考えることができた。 ○外部講師も招き、生き方の学習としても特別支援を勉強する機会を多く取ることができた。	○指導者の共通理解を深める取り組みを続けていくこと。 ○外部講師の講演など、違った観点からの理解を深める機会を増やす。	○個々の生徒について、教職員が共通理解をする機会を多く設け、実践につなげている。 ○保・小・中連携の機会は、どうなっているか。個々の子どもをトータルで育てていく体制をとりたい。 ○身体障害者に関しては理解しやすいが、心の病をもった人について学習することが大切ではないか。	A